

冬ノ一三表

母とともに念仏申てゐる月をみて浄土へじやうどく
の道へみちくゝのしるべと思ひ落へおつゝる花を見ては
娑婆へしやばくゝのことはりをさとり大かた心づよき
ものにてともに佛道へぶつだうくゝをとりてげり
さて西行が妻女へさいぢよくゝの尼へあまくゝおとこにおとらざ
りけり廿三のとしおとこ出家しければ
やがて髪へかみくゝをおろして高野へかうやくゝのあまの
入籠へこもりくゝしより後はい親人のもとより
文つかはしけれとも返事もせず常へつねくゝに